

コロナ後の渋谷ハロウィーン

佐々木 隆

プロローグ

新型コロナウイルス前（以降、「コロナ前」と略す）の通称「渋谷ハロウィーン」について、筆者は「渋谷ハロウィーンを振り返る—その変遷と時流—」（佐々木 a 1-75）において「1 日本のハロウィーン概略史」「2 日本のハロウィーンの定着度合い」「3 渋谷とハロウィーン」「4 渋谷ハロウィーンにおける新聞記事（2018年&2019年、2023年）」「5 マスコミにおける筆者のコメント」「6 注目されるスクランブル交差点」の内容で考察した。本稿では、「3 渋谷とハロウィーン」をさらに精査して、特に新型コロナウイルス後（以降、「コロナ後」と略す）の状況について考察する。

1 日本のハロウィーン

日本のハロウィーンを受容&変容について筆者は大別すると12の内容に分けることができると分類しその内容を精査（佐々木 b 1-2）したが、今回その内容をさらに精査した。

- 1 明治時代に欧米理解のために英語を理解するための一助として発行された英語辞典類における Halloween が言葉として紹介。
- 2 欧米に留学や海外滞在した者が日本にハロウィーンを紹介。
- 3 欧米の文化や宗教、民俗などを取り上げた専門書による紹介。
- 4 教育の影響。英語科や社会科の授業で取り上げる。幼稚園や保育所等での行事としての実施。
- 5 日本にいる外国人によりイベントとしてハロウィーンが開催。
- 6 ビジネスとしてハロウィーンを利用。メディアが取り上げる。
- 7 クラブ、ディスコでのパーティ。
- 8 SNS で公開された過去の写真・動画等
- 9 テーマパーク。
- 10 地域活性化として開催された地域型のハロウィーン・イベント。
- 11 第6や第7に属せずに何となく広まり、その広がりが異常なまでに高まった通称「渋谷ハロウィーン」。→ 主催者なしで大勢あつまることが特徴。
- 12 家族や友人でパーティ形式で行うもの。さらに地味ハロウィンという小規模で行おうとするハロウィーンパーティ。

「7 クラブ、ディスコでのパーティ」（佐々木 b 115）を新たに設けた。さらに、このハロウィーンだけでなく、個人が発信する SNS の影響は無視することができない時代とな

った。個人による SNS の功罪はあまりにも大きく、さらにネット・タトゥーとなり、半永久的にウェブ世界に残り続ける可能性もあり、視覚情報拡散のインパクトは無視することができない。パーティでは外国人の姿も多くあり、そこから日本人に波動していったこともあり、外国人の動きにも注目しておきたい。コロナ後は外国人観光客などはウェブ世界に生き続ける過去の写真情報に影響されることが多い。特にコスプレの場合には文字よりも写真や映像から受ける影響は大きい。コロナ前の様子をみて渋谷へ集まってくることになるのだ。

2 2024 年の渋谷ハロウィーンの様子

(1) 2023 年の渋谷

筆者は 2002 年～2011 年、2012 年～2019 年、2023 年と「渋谷のハロウィーン」(佐々木 a 13-27)を見て来た。ここで注目すべきことはトラック横転事件の起きた 2018 年、これを受けて渋谷区が「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例」(以降、「渋谷駅周辺条例」と略す)を定めたのは 2019 年である。この条例には罰則がないため、主催者のいない、自然発生的な渋谷ハロウィーンの対策としてどの程度効力があるのかということについては指摘が多くある。渋谷に集まる人が渋谷区以外からやってくる者が大半であれば、この条例の周知がどの程度のものであるかも大きな課題だ。

第 6 条と第 7 条が規制の核となる条文である。

(公共の場所における飲酒の制限)

第 6 条 来街者は、次の各号に掲げる期間において、渋谷駅周辺地域のうち、区規則で定める区域内の公共の場所(道路、公園、広場その他公共性を有する場所をいう。以下同じ。)で飲酒をしてはならない。

(1) 10 月 31 日及び 11 月 1 日並びに 10 月 24 日から同月 30 日までの金曜日、土曜日及び日曜日

(2) 12 月 31 日及び 1 月 1 日

(3) 前 2 号に掲げる期間のほか、区長が特に必要と認める期間

2 区長は、前項の規定による飲酒の制限について、時間帯を限って行うことができる。

第 6 条ではまさに「飲酒」について地域、時間帯で制限できるようにしていることが最も大きな特徴だろう。期日や時間帯について、これまでは「(1) 10 月 31 日及び 11 月 1 日並びに 10 月 24 日から同月 30 日までの金曜日、土曜日及び日曜日、(2) 12 月 31 日及び 1 月 1 日」としていた。

ここまではコロナ前となる。日本では 2019 年末では中国・武漢で発生した謎の感染症

がニュースで報じられたものの、2020年1月には横浜に寄港したダイヤモンド・プリンセス号で、新型コロナウイルス感染症が集団発生し、国内外を問わず緊張した時期が続いた。3月以降は卒業式や入学式の中止や規模縮小が相次ぎ、学校などは5月連休明けからスタートとなり、学校や企業も「リモート」「遠隔」での対応が主流となった。日本の法体制では海外のような「ロックダウン」は行われなかったが、3度にわたる「緊急事態宣言」が発令された。

緊急事態宣言は、令和2年法律第4号による改正後の新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号）の規定に基づき、同法に規定する「新型インフルエンザ等」とみなされた新型コロナウイルス感染症（ただし、令和3年法律第5号により、令和3年2月13日以降は、「新型インフルエンザ等」として位置付けられた。）に関する緊急事態が発生した旨を宣言したものであり、同宣言が解除されるまでの間、国民の生命及び健康を保護し、並びに国民生活及び国民経済に及ぼす影響が最小となるようにするため、国、地方公共団体並びに指定公共機関及び指定地方公共機関において、新型コロナウイルス感染症の全国的かつ急速なまん延を抑えるための対応として緊急事態措置が実施された。

令和2年4月7日、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県及び福岡県の7都府県を対象区域として緊急事態宣言が発出されたことを皮切りに、新規陽性者数が最初のピークを迎えた同月から同年5月にかけて、全国47都道府県が同宣言の対象区域となった（以下「第1回緊急事態宣言」という。）。その後、2年中に緊急事態宣言が発出されることはなかったが、3年1月から東京都を含む4都県を対象区域として緊急事態宣言が発出され、同年3月までの間、最大で11都府県が同宣言の対象区域となった（以下「第2回緊急事態宣言」という。）。さらに、令和3年4月から東京都、大阪府等の4都府県を対象区域として、またも緊急事態宣言が発出され、同年9月末までの間、最大で21都道府県が同宣言の対象区域となった（以下「第3回緊急事態宣言」という。）⁽¹⁾。

2020年4月～2023年5月まではコロナの影響を受けて、人の交流・イベントの開催なども制限されていたが、2023年5月8日から「第2類感染症」から「5類感染症」になった。2020年10月、2021年10月、2022年10月の渋谷における人出も極点に減ったものの、ゼロではない。行動制限のある時期では渋谷ハロウィーンはほとんど人出がなく、報道で取り上げるほどでもなかったようだ。「渋谷駅周辺条例」が施行されたものの、その後3年間はコロナ影響でこの条例を使用するもでもなかった。従って、この条例の真価が発揮されたのが2023年のハロウィーンであった。

コロナが「5類感染症」になるとイベントなども大きな制限がなく開催されるようになった。それ以降の流れについてみておきたい。

2023 年 05 月 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により新型コロナウイルス感染症の扱いが 2 類から 5 類へ

2023 年 09 月 長谷部区長、ハロウィーンに「渋谷に来ないで」宣言
※9 月 12 日。

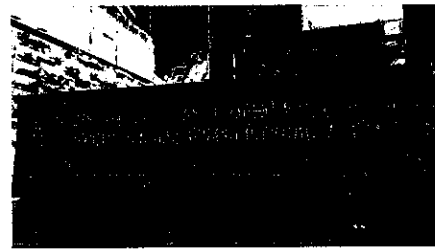
2023 年 10 月 長谷部区長、日本外国特派員協会で「渋谷に来ないで」を記者会見。
※10 月 5 日。

2023 年 10 月 渋谷区、渋谷駅前に「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」(NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS)の巨大看板を設置(費用約 4800 万円投入)

※10 月 17 日。

2023 年 10 月 ハチ公像の封印

※10 月 28 日。



(2)

2023 年の渋谷ハロウィーンで大きな騒動はなかった。それにはいくつかの理由が考えられる。

- (1) 2022 年の韓国・ソウルで起きた梨泰院での雑踏事故を受け、渋谷区をはじめ、マスコミなども 2023 年の渋谷ハロウィーンについて注目していた。当然、安全対策などについて、アフターコロナと言う要素も加わり、危機管理という観点から警備に最大限の配慮が行われた。
- (2) 2019 年 6 月に定めた渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例を最大限に活用した。
- (3) 渋谷区長はハロウィーンに対する方針を明確に打ち出し、9 月 12 日に「渋谷に来ないで」宣言、10 月 5 日に日本外国特派員協会で「渋谷に来ないで」を記者会見、10 月 17 日に「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」(NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS)の巨大看板を設置(費用約 4800 万円投入)、10 月 28 日にハチ公像の封印をするなど、段階的にしかも「渋谷に来ないで」を可視化したこと、2019 年を大幅に上回る民間の警備員約 300 人、区職員を約 150 人配置し、更にセンター街を一方通行にするなど、警察と連携し、センター街で人が集中して滞留しないように努めた。
- (4) 上記の(1)～(3)の様子が連日インターネットをはじめ、メディアで報道されたことで、かなりの抑止力が働いた。実際に渋谷の来ようとしていた若者達が梨泰院での雑踏事故を意識していかわからないが、少なくとも(3)については

かなりのインパクトがあったことは予想できよう。渋谷区の本気が若者にも届いたと言ってよいだろう（佐々木 a 20）。

条例が定められた時から、罰則がないことや渋谷区民以外の来訪者に如何に条例の内容を周知させるかは大きな課題であった。コロナ後初のハロウィーンということや前年に起きた韓国・梨泰院での雑踏事故を踏まえ、渋谷区も条例施行後の初の本格的な対応を果たした。この動きをマスコミなども大きく取り上げたことから人は集まってしまったものの、大きな混乱は避けられた。2023 年 10 月下旬から 11 月上旬の新聞記事を見ておこう。

『読売新聞』、2023 年 10 月 29 日朝刊、第 27 面

ハロウィーン渋谷厳戒 ハチ公封鎖「仮装の人、全然いない」

IT 企業「アグープ」がスマートフォンの位置情報を利用して出したデータ（速報値）によると、駅周辺（半径 500 メートル）の 27 日午後 9 時～11 時台の人出は、昨年

のハロウィーン前の金曜日と比べて約 1 割増にとどまった。

『日本経済新聞』、2023 年 10 月 29 日朝刊、27 面

渋谷の混雑厳戒

「仮装した若者や外国人の姿は少なく、午後 9 時時点では例年のような騒ぎは見られなかった。

『朝日新聞』、2023 年 11 月 1 日朝刊、第 21 面

新型コロナの「5 類移行」後では初のハロウィーンとなった 31 日、例年、仮装した多くの人らでにぎわう渋谷駅前も、昨年以上の警戒態勢となった。

迷惑となる路上飲酒やゴミ放置に加えて、雑踏事故の恐れもあるとして、渋谷区は今回、例年以上に「ハロウィーン目的で渋谷に来ないで」と呼びかけた。

区の要請に応じた JR 東日本は、渋谷駅ハチ公口のシャッターを一部閉鎖。渋谷センター街は中央に仕切りが設置され、警察官が右側通行を呼びかけた。区も、事故警戒の警備員を前年より 25 人多い 125 人態勢に。区職員約 30 人もゴミを拾いながらマナー順守を呼びかけて回った。

区は 28 日と 31 日に、渋谷駅周辺の店へ酒類販売自粛を呼びかけた。直前期間は路上飲みが減ったという。31 日は仮装をした人も多かったが、路上飲みは少なかった。

『毎日新聞』、2023 年 11 月 1 日朝刊、第 23 面

渋谷 自粛モード 仮装する若者まばら「来ないで」声届いた？

ハロウィーン当日の 31 日、東京の JR 渋谷駅周辺の繁華街は夕方から夜にかけ、仮

装した人の姿はまばらだった。新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行してから初めてということもあり、今年は多くの人出が予想されていた。そんな中で、渋谷区長が「ハロウィーン目的で来るのは考え直してほしい」と呼びかけていた。現地での異例の対応が、自爾につながったとみられる。

渋谷駅近くのスクランブル交差点周辺では夕方から、徐々に人通りが増え始め、外国人観光客らの姿も見られた。

ただ、新型コロナ流行前のように、大勢の仮装する若者らが集まる光景はなかった。人気ゲーム・スーパーマリオブラザーズの仮装をしていた相模原市の男性(22)は「仮装している人が少ないのは寂しいが、事故が起きないように気を付けて行動したい」と話した。

交差点付近は警視庁の機動隊員が多く配置され、交通整理を実施。柔らかな語り口で歩行者を誘導するDJポリスも出動し、英語や中国語も交え、注意喚起した。午後10時現在で目立ったトラブルはなかった。

渋谷では2018年、集まった人たちが軽トラックをひつくり返すなど、これまでもトラブルが起きていた。22年10月には韓国・ソウルの繁華街・梨泰院で、ハロウィーンを前に集まった多くの若者らが犠牲となる雑踏事故もあった。

こうした状況や新型コロナの5類移行を踏まえ、渋谷区は2週間ほど前から「渋谷はハロウィーンの会場ではありません」と来場自粛を呼びかける大型看板を設置した。

さらに、普段から多くの人が集まる駅前のハチ公像の周辺に仮囲いを設置して封鎖。センター街では、駅側の出入り口を一方通行にして誘導するなど、狭い場所に人がとどまらないような措置を取った。

トラブルの原因になりかねない路上飲酒についても対策を講じた。区条例に基づき、27日～11月1日は駅周辺の指定区域内の路上で夜間の飲酒を禁止。当日の31日などは、周囲のコンビニエンスストアなどへ酒類の販売自粛を要請した。

海外から留学中という女性(26)は「路上飲みの禁止は良いことだと思う。それぞれ仮装を楽しめば良い」と話した。

『読売新聞』、2023年11月1日朝刊、第25面

厳戒渋谷 混雑と統制 ハロウィーン

センター街では、雑踏事故を防ぐために、道の真の中に柵が設置され、一方通行の対策が取られた。ただ、仮装姿の若者や外国人が多くなるにつれ、道幅の狭い場所では通行が困難になる時間帯もあった。

『読売新聞』、2023年11月2日朝刊、第21面

警官ずらり 渋谷様変わり

区によると、同日（１日）の渋谷では大きなトラブルもなく、逮捕者も出なかった。長谷部区長は、事前の広報活動で来街者を減らしたことや、懸念された路上飲酒者の発生を抑えられたことなどを要因に挙げた。

来年以降については、「渋谷の街がハロウィーン会場ではないという発信は続けたい」と述べる一方で、警視庁などと実施した厳戒態勢を続けるかは、世論を見極めて結論を出すという。

2023 年の渋谷ハロウィーンはコロナの反動を受け、人出をある程度出たものの、条例による規制や事前の告知などにより、路上飲みなどにはかなり抑制力が働いた結果となった。

（２）2024 年の渋谷

2023 年は２類後から５類後以降後初の渋谷ハロウィーンを迎えた。その課題を受けて 2024 年はどうであろうか。その流れを条例の改正から見ておきたい。

2024 年 6 月 渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例の一部改正について

※10 月 1 日施行。

「渋谷区では、ハロウィーンや年末カウントダウンなどの特定の期間において、一部の来街者による迷惑行為などにより、渋谷駅周辺地域の安全で快適な秩序が脅かされる事態が発生していたことから、令和元年 6 月に本条例を制定しました。しかし、迷惑路上飲酒は常態化し、これに起因するごみの放置や騒音などのトラブルは深刻化しています。

そこで、本条例を改正し、令和 6 年 10 月 1 日より午後 6 時から翌朝 5 時の間、路上や公園など公共の場所における飲酒を通年で禁止し、また禁止エリアも拡大することとしました。これによってさらに区民、事業者および来街者の安全・安心を確保し、渋谷区が成熟した国際都市へと進化していくことを目指します。」⁽³⁾

「渋谷駅の周辺では 2023 年新型コロナが 5 類に移行されたあと、若者や外国人による路上飲酒が常態化し、空き缶などのゴミの放置や飲酒をめぐるトラブルが相次いでいます。このため渋谷区は、渋谷駅周辺のエリアについて、2019 年に制定した条例でハロウィーンや年末年始に限って路上飲酒を禁止していましたが、条例を 2024 年 6 月に改正し、年間を通じて禁止することにしました。改正された条例は 10 月 1 日から施行されました。」⁽⁴⁾

2024 年 6 月 新宿駅周辺地域の安全で秩序ある環境の確保に関する条例

※目的 ハロウィーン時期の路上飲酒の制限、迷惑行為や雑踏事故による危険を未然に防止⁽⁵⁾

※「新宿駅周辺地域の安全で秩序ある環境の確保に関する条例が制定されました」⁽⁶⁾

条例制定の背景

国内外からの観光客など来街者が増加する中で、ハロウィン時期等において、歌舞伎町周辺に大勢の来街者が集まり、大きな混乱はないものの、ごみが至るところに散乱するなどの事態を招きました。

今後もハロウィン時期等の来街者の増加が予想されることから、路上飲酒の制限、迷惑行為の禁止、事故等の防止に向けた対応が必要になると考え、新宿駅周辺地域の安全で秩序ある環境の確保に関する条例を制定する運びとなりました。

路上飲酒の制限の区域及び期間

路上飲酒の制限の区域及び期間については下記のとおりとなります。

1 制限の区域

東京都新宿区新宿三丁目及び歌舞伎町一丁目の一部

2 制限の期間

(1) 10月31日(木) 午後5時から11月1日(金) 午前5時

(2) 上記日時のほか、新宿駅周辺地域の安全で秩序ある環境を確保する観点から区長が特に必要と認める期間

2024年10月7日 長谷部区長、吉住健一区長、日本外国特派員協会で「渋谷・新宿には来ないで」「ハロウィン」前に外国人観光客へ両区長が訴え…夜間の路上飲酒も禁止」を記者会見⁽⁷⁾

2024年10月17日 ハロウィン期間の忠犬ハチ公像周辺の仮囲いおよびプレスエリアの設置について

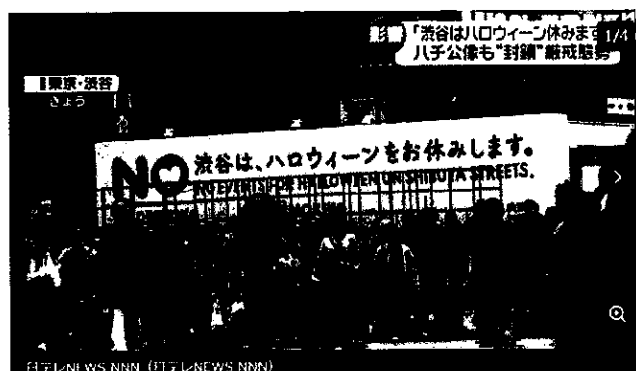
「ハロウィン期間の渋谷駅周辺地域の安全対策のために、10月30日(水曜日)6時から11月1日(金曜日)5時(予定)まで、忠犬ハチ公像周辺に仮囲いを設置します。」⁽⁸⁾

2024年10月27日 ハロウィン近し 東京・渋谷は「無法地帯」 改造車が列、外国人も禁止守らず飲酒⁽⁹⁾

2024年10月30日 日テレNEWS「「渋谷はハロウィン休みます」…ハチ公像も“封鎖”で厳戒態勢 お台場では“新たな聖地化”目指す施設も」(10/30(水))

31日はハロウィン。路上飲酒などが問題となっている渋谷では、「渋谷はハロウィンをお休みします」と掲げています。10月31日はハロウィン。“ハロウィンの聖地”となっている東京・渋谷では…記者

「いたるところに『ハロウィンはお休みする』という掲



示があります」渋谷のシンボル・ハチ公像も、まわりに柵と幕が設置され、その姿は見えなくなりました。今年も渋谷区は、ハロウィーン期間に渋谷へ来ることを控えてほしいと呼びかけています。

それもそのはず…

会社員（20代）

「毎年、事件とか起こっているのが危ないなって思って」

会社員（20代）

「昔は憧れたけど、事件とかいっぱい見てからは全くいいイメージはない」

例年、若者や外国人たちが路上でお酒を飲んで暴れたりするなどトラブルが相次ぎ問題視されるようになりました。

そうした状況をうけ、渋谷の繁華街では、今月から年間を通して夜間の路上飲酒が条例で禁止に。さらに近隣の商業施設でも、ハロウィーン当日の31日は通常よりも1時間から2時間ほど時短営業すると発表。渋谷パルコでは通常営業をするものの、仮装している客の入店を制限したり、トイレでの着替えをしないよう呼びかけています。

ハロウィーンを楽しめる“新たな場所”も誕生しています。

「ナースです！」

「ハロウィーンの仮装をしたくて来た」

今年3月、お台場にオープンした没入型テーマパークでは、来月30日までハロウィーンイベントを開催。この期間中だけは思いっきり仮装することができるんです。

施設内にはイベント期間中、更衣室を用意。さらにチケットの金額を通常よりも2000円安くし、来園しやすいようにしました。（1Dayパス通常大人6800円 来月30日まで大人4800円）

そのワケは…

イマーシブ・フォート東京 CMO 柚木隆太さん

「（ハロウィーンを）東京で楽しめる場所がなくなっている状況があると思う」^{（10）}

『毎日新聞』2024年10月31日朝刊、第22面

新宿も「来ないで」 きょうハロウィーン

新宿区の吉住健一区長は9月の定例記者会見で、厳しい口調で訴えた。昨年のハロウィーンで、新宿区は一部のエリアで例年を上回る人出があった。

新型コロナウイルスが感染法上の5類に移行して初のハロウィーンだった昨年。例年仮装した多くの若者が集まる渋谷区は「渋谷に来ないで」と来訪を控えるよう要請し、路上飲酒禁止などの対策をとった。

結果として、渋谷駅周辺で最大6万人と見込まれていた人出は当日、約1万5000人にとどまった。

一方で新宿区の歌舞伎町エリアでは例年を約 3000 人上回る人出となった。一部は渋谷から流れた若者らだったみられる。区職員が路上に散乱したゴミ拾いに追われた。

新宿区は大祭に乗り出し、今年 8 月には、ハロウィーン当日の 10 月 31 日午後 5 時～翌午前 5 時に、歌舞伎町周辺の路上での飲酒を禁止すると条例で定めた。コンビニエンスストアなど、酒類を販売する店舗にも販売自粛を要請した。

『読売新聞』2024 年 11 月 1 日朝刊、第 31 面

ハロウィーン歌舞伎町も警戒

ハロウィーン当日の 31 日、東京の歌舞伎町（新宿区）や渋谷駅（渋谷区）の周辺は、仮装した人たちでにぎわった。トラブルをふせぐため、渋谷区に加えて今年は新宿区でも路上飲酒を禁じる条例が施行され、区職員らが警戒にあたった。

渋谷駅周辺でトラブルが多発したことを受けて渋谷区は 2019 年にハロウィーン期間中の路上飲酒を禁じる条例を設け、昨年は来街自粛を呼びかけた。その結果、歌舞伎町に大勢の若者らが集結して大量のごみが捨てられるなどしたため、新宿区も今年 6 月、同様の条例を制定した。

歌舞伎町ではこの日、区職員らが、路上で缶チューハイを飲んでいた若者らを注意した。渋谷駅前でも、警視庁お機動隊員らが交通整理にあたった。

『朝日新聞』2024 年 11 月 1 日夕刊、第 9 面

控え目ハロウィーン規制効果？

午後 8 時近く、歌舞伎町は人でごった返すように。スーパーマリオなどに扮したが外国人の姿も目立った。午後 9 時過ぎには、路上に座り込む人もいた。

新宿のハロウィーンが一変したのは、昨年のこと。例年、多くの若者らが集まっていた渋谷区が「ハロウィーン目的で来ないで」と呼び掛けたことで、歌舞伎町を中心に人が流れ込んだ。区は 6 月、ハロウィーン当日の路上飲酒禁止などを盛り込んだ条例を制定。10 月上旬には渋谷区と共同で会見し、吉住健一区長が「新宿は路上飲酒をお断りする」と強調した。

効果はあったのか。午後 9 時ごろ、歌舞伎町を訪れた吉住区長は、記者団に「人は多いが、昨年より路上飲酒は少ないと感じた。治安面も含め規制を効果が出ているのでは」と語った。

『朝日新聞』2024 年 11 月 2 日朝刊、第 27 面

ハロウィーン混雑 仮装の下は…

渋谷「お休み」外国人への周知に課題

一夜明けた 1 日朝、渋谷区の長谷部区長は、取材に「無事やり過ごせた」と安堵の表情を見せた。飲酒に伴うトラブルやごみの散乱に悩まされてきた同区は昨年、来街

自粛を呼びかけ、今年も「渋谷はハロウィーンをお休みする」と発信していた。

ただ、ハチ公前広場など中心部の人出はピーク時（午後 10 時）で約 1 万 8 千人に上り、昨年より 2 割ほど増加。長谷部区長は、仮装する外国人が増えたと指摘し、「（昔に）逆戻りしたところも見受けられた。旅行者にどう伝えていくかが課題だ」と話した。一方、区が路上飲酒を注意したのは 198 人で、昨年より 3 割ほど減った。

新宿区は今年初めて、当日の路上飲酒を禁止した。昨年は渋谷区が規制を強めたことで、新宿に多くの人が入り込んだためだ。

31 日夜に歌舞伎町を視察した吉住健一区長は 1 日、取材に「おおむね落ち着いており、規制の成果はあった」と受け止めた。路上飲酒で区職員が注意した件数は 311 件で、外国人に対するものが約半数だった。吉住区長によると、「注意すれば素直に聞いてくれた」という。

一方、新宿区に隣接する豊島区によると、池袋では渋谷や新宿からの目立った人の流入はなかったという。

『毎日新聞』2024 年 11 月 2 日朝刊、第 17 面

ハロウィーン 混乱なし 渋谷・新宿

ハロウィーン当日の 10 月 31 日に仮装した人らの姿が見られた渋谷駅や歌舞伎町（新宿区）の周辺で 1 日朝までに大きなトラブルがなかったことが、警視庁への取材で分かった。同庁などが警備をしていた。

渋谷駅前のスクランブル交差点周辺では、多くの警察官を配置して交通整理に当たり、日本語と英語で事故防止を呼びかけた。

新宿区では今年から新たに 1 日未明にかけて路上で酒を飲むことを条例で禁止した。

2024 年のハロウィーンの時期は第 50 回衆議院選挙が 10 月 15 日公示、27 日投開票の日程となり、自民・公明等が過半数割れするかどうか争点となっていただけにマスメディアもハロウィーンよりもこの政局を左右する選挙に注目が集まったのも当然だ。例年よりも報道が少なかった印象もある。2024 年には渋谷だけでなく、新宿も路上飲酒の禁止を謳い条例を定めるなど、混乱の抑制に努める結果となった。2023 年及び 2024 年の渋谷ハロウィーンから見えるものは一体何か。

- 1 渋谷区の強い意向により横断幕の設置、メディアへの積極的な働き掛けにより、広条例等の趣旨が広く知られるようになった。
- 2 観光客を含め、外国人への周知が課題として残った。
- 3 渋谷センター街の飲食店等がハロウィーンの時期に休業することで、トラブルを避けているが、本来はこうした休業は本来の在り方ではない。

4 警備等に係る費用も自治体には大きな負担になるため、継続的にこうした体制が取れるかどうか。

来街者については上記の中で2が次の課題として残るだろう。拙著「渋谷ハロウィーンの原点」(2025)でも言及したが、渋谷ハロウィーンが現在のような状況になる以前から外国人が渋谷駅や新宿駅、JR山手線内で乱痴気騒ぎを起こしていたが、状況は異なるにせよ、外国人への対応が課題として大きくクローズアップされている。大晦日のカウントダウンについても同様な状況である。筆者は「日本のハロウィーンの受容&変容」の様子を12に分類したが、その8がかなり大きい要因になっていると考えている。

「8 インターネット上に公開された過去の写真・動画等」を新たに設定した。外国人観光客などは特にこうした過去の情報に影響されることが多い。特にコスプレの場合には文字よりも写真や映像から受ける影響は大きい(佐々木b2)。

コロナ以後だけでなく、2024年は訪日外国人旅行者が過去最高となった。訪日外国人旅行者に関する報道や発表に注目してみたい。

NHK「1月～11月の訪日外国人旅行者 累計 3337万人余 過去最多上回る」(2024年12月18日)

ことし1月から11月までに日本を訪れた外国人旅行者は、累計で3337万人余りとなり過去最多だったコロナ禍前の2019年1年間の累計をすでに上回りました。

日本政府観光局によりますと11月、日本を訪れた外国人旅行者は推計で318万7000人で、1月から11月までの累計は3337万9900人となりました。

過去最多だったコロナ禍前の2019年1年間の3188万人をすでに上回り、コロナ禍で落ち込んだ訪日の旅行需要が大きく回復した形です⁽¹¹⁾。

JNTO 日本政府観光局「12月：3,489,800人、単月として過去最高を記録／2024年計：36,869,900人、年間で3,600万人を突破し過去最多」

12月の訪日外客数は3,489,800人で、前年同月比では27.6%増、2019年同月比では38.1%増と過去最高であった2024年10月の3,312,193人を上回り、単月過去最高を記録した。スクールホリデーのほかクリスマス・年末年始に合わせた旅行需要の高まりが多く市場で見られ、1964年の統計開始以来、初めて単月として340万人を突破した。

また、2024年の年間訪日外客数は36,869,900人で、前年比では47.1%増、2019年比では15.6%増と、過去最高であった2019年の31,882,049人を約500万人上回り、年間過去最高を更新した(23市場のうち計20市場が年間の累計で過去最高を記録)。

桜・紅葉シーズンや夏の学校休暇など、ピークシーズンを中心に各市場が単月での過去最高を更新し、東アジアのみならず東南アジア、欧米豪・中東においても実数を増やしたことが、年間過去最高の更新に繋がった。

2023 年 3 月に策定された第 4 次観光立国推進基本計画では 3 つの柱「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」が示されるとともに、旅行消費額・地方部宿泊数等に関する新たな政府目標が掲げられているところ、これらの実現に向けて、市場動向を綿密に分析しながら、戦略的な訪日旅行プロモーションに取り組んでいく⁽¹²⁾。

2023 年の観光庁「インバウンド消費動向調査【トピックス分析】訪日外国人旅行者（観光・レジャー目的）の訪日回数と消費動向の関係について」⁽¹³⁾によれば、三大都市（大阪府・京都府・東京都）の訪問が多いことや繁華街の街歩きも人気が高いことを考えると、渋谷に人が集まるのもやむを得ないかもしれない。渋谷のスクランブル交差点はやはり象徴的なものだろう。実際に渋谷に行ってみれば、外国人が写真や動画を撮影している様子を見ることはよくある。こうした外国人が日本の状況を知る、観光の資料としているのがガイドブックやインターネット（SNS）である。10 月下旬に日本を訪れた外国人が日本のハロウィーンを体験しようと渋谷に集まるのは、こうした背景も無視できないだろう。すなわち、インターネット上の映像の蓄積による影響もあるが、訪日外国人旅行が過去最高となったのが 2024 年であったことも無視することはできないだろう。外国人への対策についても、日本人と同様にまず「渋谷がハロウィーンの会場ではないこと」「路上飲酒が禁止されていること」の 2 点について周知徹底するしかないだろう。渋谷駅前での横断幕には英語でも書かれているが、インターネット上への英語による告知ももっと積極的に行うことが今後求められるだろう。

現在でも以下のような英語での案内はインターネット上で見ることはできる。

Shibuya is officially closed for Halloween 2024

Following a recently enforced year-round ban on public drinking, Shibuya is cancelling Halloween again this year

Written by Shota Nagao

Editorial Assistant, Time

Out Tokyo

Wednesday 16 October 2024

Shibuya no Halloween sign 2024

Photo: Lim Chee Wah



In the last couple of years, the public was urged to refrain from gathering at Shibuya during Halloween. This year, Shibuya ward mayor Kenichi Yoshizumi is doubling

down on the same resolve by announcing that Shibuya will be closed for Halloween. The city is more determined than ever to prevent overcrowding in the streets surrounding the ever-busy Shibuya Station in days leading up to the holiday. For many years now, Shibuya was the de-facto gathering spot for Halloween celebrations. Hordes of revellers could be seen flocking to the streets and public squares around Shibuya Station to party and show off their elaborate costumes. But the district has put a stop to this, as it's aiming to distance itself from its 'unofficial' image of rowdy Halloween festivities. Moreover, Shibuya is serious about combating issues of littering, noise and public disturbances caused by these massive gatherings.



Shibuya no drinking sign 2024

Photo: Lim Chee Wah No drinking and no smoking on the street signs are now up all over central Shibuya

In general, Shibuya is stepping up its efforts to curtail overcrowding by implementing several initiatives. The first is a year-round ban on public drinking, which went into effect earlier this month.

Additionally, from October 26 to October 31, the police and 185 security guards will be deployed in Hachiko Square and ten other locations in Shibuya for crowd control.

The famous Hachiko statue will also be cordoned off behind a fence.

Shibuya city has even asked venues including convenience stores to refrain from selling alcohol during the hours of 6pm to 5am on the abovementioned dates ⁽¹⁴⁾.

Halloween crowd control tight in Tokyo's Shibuya, Shinjuku

KYODO NEWS By Eduardo Martinez, KYODO NEWS · Oct 31, 2024

Whistles shrilled and LED batons motioned pedestrians to keep moving in Tokyo's buzzing Shibuya and Shinjuku districts Thursday amid a crackdown by local authorities to prevent overcrowding for Halloween.

Celebrations in Shibuya were markedly toned down and few were seen wearing costumes, with police guiding people away from the area and a newly implemented year-round alcohol ban in full effect. The occasion had gained notoriety for unruliness in recent years in one of Tokyo's most popular tourist spots.

The alcohol consumption ban is effective daily from 6 p.m. to 5 a.m. in areas surrounding JR and Keio Shibuya stations, including the district's iconic crossing. The famous Hachiko dog statue, a popular meeting place, has also been hidden behind a barrier until Friday morning.

Shibuya Ward authorities have been on alert following the lifting of COVID-19 restrictions and in the wake of a deadly crowd crush in Seoul's Itaewon entertainment district in South Korea in 2022.

"It is agonizing that I must ask people not to come," Shibuya Mayor Ken Hasebe said in a recent statement, "But I'm making this difficult decision to ensure your safety." ⁽¹⁵⁾

新宿についても以下のように記事が掲載されている。

Shinjuku Ward also newly introduced this year a ban on alcohol consumption in and around the Kabukicho area, effective from 5 p.m. Thursday to 5 a.m. Friday. Both of the drinking bans in Shibuya and Shinjuku do not carry penalties.

"I came to dress up and have fun with my friends," said Yuzuki Mizuno, 23, who was among those who came to Shinjuku last year.

"Restrictions are important, but I think it's a bit sad that it is impacting the excitement (of the occasion)," she said, pointing out there were now noticeably less people in costume.

Rilana De Haas, 28, of the Netherlands, said, "I wanted to celebrate Halloween in Tokyo this year, but not Shibuya because it's too crowded, so this is actually very

chill."

De Haas said she was not very bothered with the street drinking ban. "Nobody really minds. Maybe that's why everybody's so calm and collected." ⁽¹⁶⁾

上記は報道機関が行っているものであるが、個人の SNS などでもこうした内容のものがアップされ、拡散されなければ、外国人が目にすることはないだろう。周知の問題が大きい。

3 今後のハロウィーンの行方

渋谷ハロウィーンの様子だけでなく、日本のハロウィーンがコロナ以後どのような方向に動くのか、どのような行動様式を取るのかにも注目しておきたい。まずインテージ生活者研究センターの田中宏昌センター長が以下のような内容をインターネット上に公開している。

ハロウィン参加は少数派、楽しみ方は仮装よりも...「5000 人調査」で意外な事実が判明

データで見抜く「世論」の真実 2023.10.28 8:30

幅広い年代の女性が参加、若い男性とハロウィンの「距離」は？

全体では「世間が盛り上がるもの」と捉えている人が多いですが、性・年代別に詳しく分析してみると様相が変わります。次の図表を見てください。

10～20代若年層や女性 30～40代は「身近」に感じているだけでなく、ハロウィンの際には「イベントに参加したり何かしらを行う」といった割合が他層よりグッと高くなっています。

実は多くの人が「他人事」？ハロウィン楽しむ人は誰なのか

東京都渋谷区は毎年、ハロウィン（10月31日）になると、若者や外国人を中心に多くの人が続り出すことで有名です。約3年続いたコロナ禍でも多くの人が集まりニュースになっていましたが、さらに今年は行動制限も解除され、多くの人が続到するのではないかと懸念が高まっています。9月に渋谷区長が「ハロウィンの日に渋谷には来ないでください」と声明を出して話題になりました。

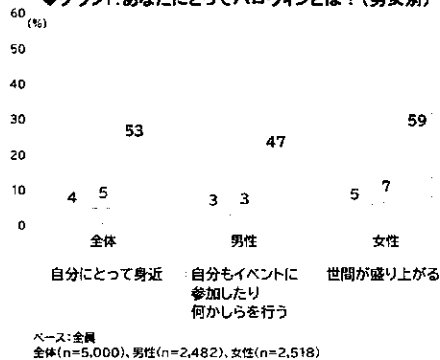
しかし、どのような人が実際にハロウィンを楽しんでいるのでしょうか？その人たちの顔が見えてくると、意外に思うかもしれません。

23年10月上旬にインテージが実施した調査結果（全国15～79歳、5000人対象）によるとハロウィンを「身近なイベント」として捉えている人はわずか4%でした。また「自分もイベントに参加したり何かしらを行う」と回答した人は5%。男女別で見ると「身近なイベント」も「自分もイベントに参加したり何かしらを行う」も女性の方が少しだけ男性を上回っていました。

その一方で「世間が盛り上がるもの」という認識の人は全体では 53%と半数を超えていました。

ディズニーランドや USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）などのテーマパークでは、ハロウィンはクリスマスに次ぐメジャーイベントになっています。しかしながら、こうした結果を見るとハロウィンはまだまだ一部の人のイベントにとどまっているようです。

◆グラフ1: あなたにとってハロウィンとは？(男女別)

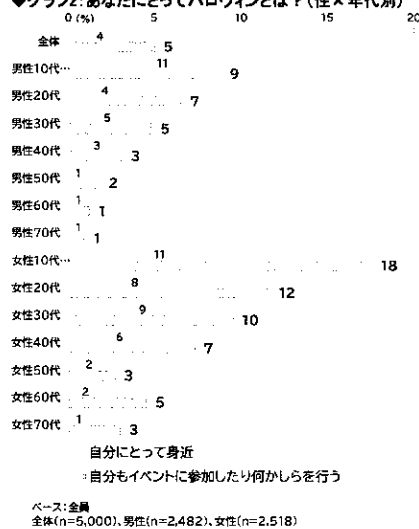


では、一体、どんな人がハロウィンを盛り上げているのでしょうか。

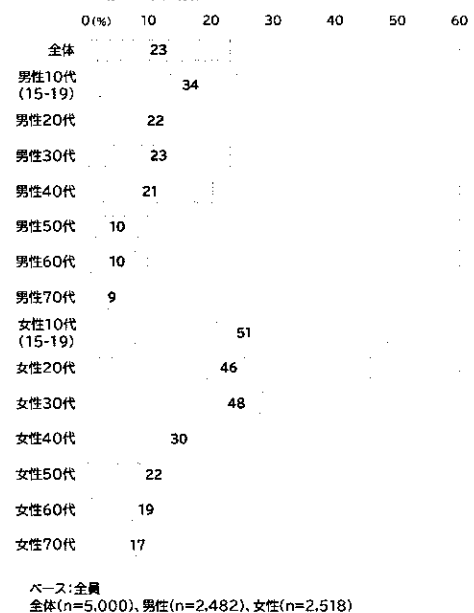
さらに、今年（2023 年）のイベントへの参加・関与予定を聞いたところ、全体の 23%、約 4 人に 1 人が「なんらかの形で参加する」と回答していました。こちらも性・年代別に詳しく見てみると男性では10代が、女性においては 10 代から 40 代と幅広い年代において、なんらかの形でハロウィンを楽しんでいるようです。

次に、人々はどう楽しむのか調べてみると、渋谷で大騒ぎ...といった風景とは異なる方法がありました。特に意外なのは男性たちの楽しみ方です⁽¹⁷⁾。

◆グラフ2: あなたにとってハロウィンとは？(性×年代別)



◆グラフ3: ハロウィン参加・関与経験「何らかの形で参加する」(性×年代別)



コロナ以後の行動様式の変化はハロウィーンに限らずよく指摘されるところだ。新年会、忘年会などこれまでは大勢が集まり、あるいはある一定の人数で集まり、会食などする機会が減っている。コロナにより行動制限を受けると、人に会えないことでのストレスがあった一方、気乗りしないイベントや会食がなくなったことで歓迎されることもあった。

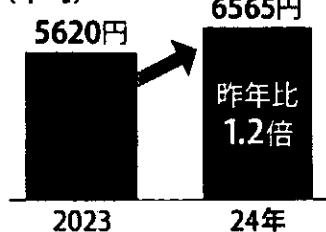
これは会議の在り方なども同様だ。コロナ後は、リモート会議なども併用されることが多くなったことだろう。

渋谷でのハロウィーン騒動は悪いイメージが先行しており、ハロウィーンの時期に渋谷へ行くというのはある一定数いるものの、「とりあえず渋谷」はコロナ以前よりもかなり減

少したのではないだろうか。一時期、条例の影響もあり渋谷から新宿へ人出が流れたようだが、2024年には新宿も同様の条例を定めたことで人が集まることへの一定の抑制力が働いたとみてよいだろう。しかし、10代を中心になにかはやりたいという気持ちは持っていることがわかる。

インテージは2024年にも同様の5000人アンケートを実施している。全国15～79歳までの男女を対象にインターネットで9月27日から10月1日に実施したものだ。『毎日新聞』（2024年10月28日夕刊、第6面）では次のような記事が取り上げられている。

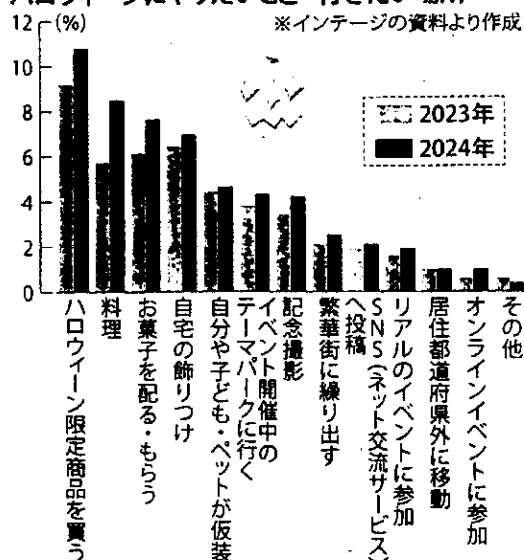
ハロウィーンにかかる費用
(平均)



※インテージの資料より作成

調査会社のインテージ(東京都千代田区)が発表したハロウィーンに関する調査によると、2024年の平均予算は前年比1.2倍の6565円だった。10代女性では、何かしら予定がある人が7割に上った。予算の増加は物価高に加え、「楽しみたい」「出かけたい」とする気持ちが押し上げたようだ。

ハロウィーンにやりたいこと・行きたい場所



※インテージの資料より作成

近年、ハロウィーンに関連したトラブルが社会問題化している。予定として「繁華街に繰り出す」とした人は2.5%で、その際重視する点として(複数回答)「安全」(52.0%)を挙げた人が最も多かった。「清潔」(36.0%)や「自治体が受け入れているか」(20.0%)と答え人もいて、インテージは「安全、安心、モラル面も一定重視されている」とみている。

ハロウィーンにかかる費用が昨年比1.2倍となっているが、物価高を考えるとその内容は昨年並みということだろう。むしろ、全体的に数字が上がっていることに注目すべきだろう。コロナ後の行動様式として、ハロウィ

ーンについては「限定商品を買う」が確かに伸びているが、筆者は「イベント開催中のテ

ーマパークに行く」「繁華街に繰り出す」「リアルイベントに参加」「移住都道府県外に移動」を加えた移動を伴う行動様式は、「限定商品を買う」を上回る。一方で、個人で完結する消費「限定商品を買う」「料理」「自宅の飾りつけ」「自分や子ども・ペットが仮装」を一つの行動様式としてみれば40%近くになる。

NRI「コロナ禍以前の生活に戻せない日本人～戻らない日本人の余暇消費と新需要開拓の必要性～」(2024年2月26日)にも注目しておきたい。

「生活者年末ネット調査」

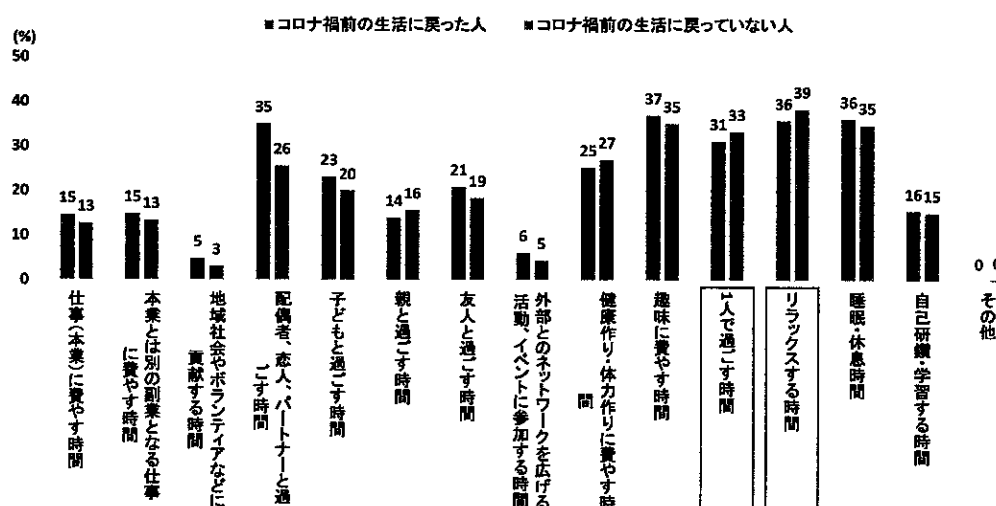
実施時期 2023年12月16日～2023年12月17日

調査方法 インターネット調査

調査対象 全国の満15～69歳の男女個人(対象者は2020年国勢調査における年齢階級(10歳刻み※10代は15歳～19歳)別の構成比に応じた割付回収を行った)

有効回答数 3,097人

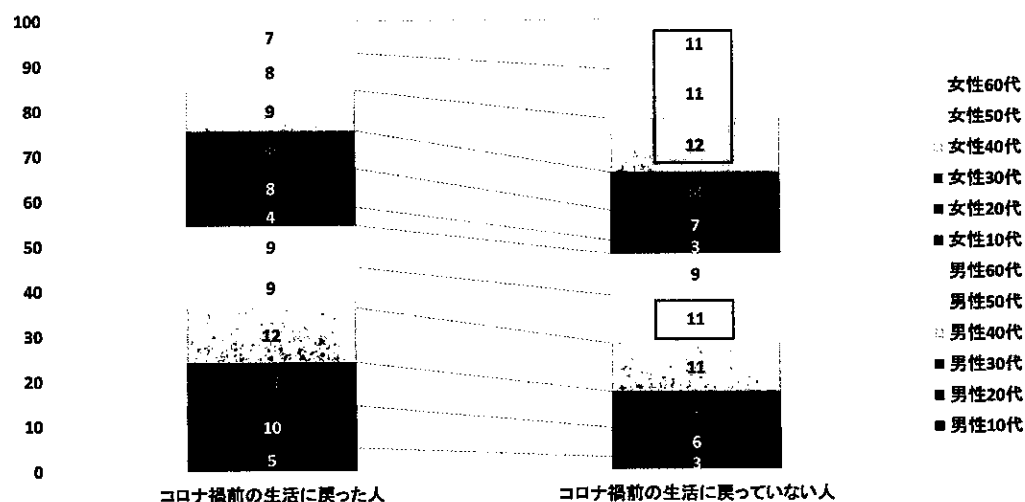
図5: コロナ禍前の生活に戻った人・戻っていない人の今後増やしていきたい・過ごしたい時間



日本人がコロナ禍前の生活に戻っていないことの理由に、消費や行動に対して様子見傾向があるとすれば、楽観的に考えれば遅れながらもコロナ禍以前の生活に戻っていくのだろうか。残念ながら筆者はその考えに対しては否定的な見方をしている。コロナ禍前の生活に戻った人・戻っていない人の属性分析をしたところ、例えば性年代比較では図6のような違いが見られた。コロナ禍前の生活に戻っていない人の方が女性40代以上の層が多く、そもそも両者の属性の違いが大きい。中高年層は若年層よりもアクティブな生活をしにくい年代であることを踏まえると、一度コロナ禍における自

粛生活に慣れてしまった人々が元の生活にシフトするとは考えにくいのではないか。たとえば海外旅行を例にとると、これまでよく見られた周遊・観光目的の慌ただしい旅行ではなく、生活様式を変えた人々にとっても魅力的と思えるような、「1人で」「リラックスできる」といった要素を持つプログラムが求められるのではないだろうか。

図 6：コロナ禍前の生活に戻った人



(18)

冊子では印刷がモノクロのため、図5の棒グラフの左側はコロナ禍前の生活に戻った人、右側はコロナ禍前の生活に戻っていない人となる。

2023年と2024年のイメージとNRIの調査を合わせて考えると、コロナのビフォー・アンド・アフターでは明らかに行動様式に変化が見られる。これは年齢の差もある。若い人程、元の生活にもどりつつある。こうした内容はハロウィーンにもある程度にも反映されていることになる。

エピローグ

コロナ後の渋谷ハロウィーンは、2024年の渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例の一部改正、新宿駅周辺地域の安全で秩序ある環境の確保に関する条例の制定という行政側の動きが象徴的であった。条例違反に対する罰則はなく、外国人への対応も課題が残っている。コロナの時もそうであるが、日本では政府が国民の行動を完全に制御する法令によるロックダウンはできないものの、緊急事態制限の発令、国民自身が自らの意志での自粛、もともとマスクを着用する習慣があるといったことでなんとか乗り切った。日本人の行動様式として周囲と合わせる、他人に迷惑をかけないという点が良い面で効果を発揮したことになる。

渋谷ハロウィーンもこれに若干類似している点がある。渋谷センター街で起きた2018年トラック横転事件は大きな転換の起点となった。筆者自身も新聞による注意喚起、テレビ出演において発言（佐々木 a 64・68）もしたが、「容認と抑制」のバランスが大きな問題となり、行政が「抑制」に舵を切った。その結果が条例の制定となった。それでも「罰則なし」は「容認」の部分が一部残ったことになる。

2023年には5類移行後の初めての渋谷ハロウィーンにしろ、2024年にしろ、行政側の意志表示が、渋谷駅前の横断幕やハチ公の封鎖という可視化によって示されたこと、マスコミがこれを大きく取り上げたことは一定の成果を収めたと言ってよいだろう。これをいつまで続けるのかも今後の課題となることは明らかだ。同じやり方だけでは外国人の抑制には不十分だ。SNSを含め、さらなる工夫が求められるだろう。

注

- (1) 「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言期間等の推移」、『令和4年版 犯罪白書』、法務省。
(https://hakusyo1.moj.go.jp/jp/69/nfm/n69_2_7_2_0_3.html)
2025年1月10日アクセス。
- (2) 「【注意】渋谷はハロウィーン会場ではありません」巨大看板が話題に 区の本気すぎる対応、背景に「例年以上のリスク」
(<https://news.yahoo.co.jp/articles/39ac9c9858d60dd065c7037d4468d666b489b18c/images/000>) 2023年11月15日アクセス。
- (3) 渋谷区「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例の一部改正について（令和6年10月施行）」
(<https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/shisaku/jorei-toshin/sbykankyo.html>)
2024年10月29日アクセス。
- (4) NHK首都圏ナビ「渋谷の路上の飲酒が通年禁止 外国人などのゴミ放置やトラブルで」（2024年10月1日）
(<https://www.nhk.or.jp/shutoken/articles/101/012/70/>) 2024年10月29日アクセス。
- (5) 新宿区「令和6年のハロウィンについて」
(https://www.city.shinjuku.lg.jp/anzen/kikikanri01_000001_00197.html) 2024年10月20日アクセス。
- (6) 「新宿駅周辺地域の安全で秩序ある環境の確保に関する条例が制定されました」
(https://www.city.shinjuku.lg.jp/anzen/kikikanri01_000001_00164.html) 2025年1月15日アクセス。
- (7) FNN プライムオンライン「渋谷・新宿には来ないで」“ハロウィン”前に外国人観光客へ両区長が訴え…夜間の路上飲酒も禁止」（2024年10月7日）

- (<https://www.fnn.jp/articles/-/769036>) 2024 年 10 月 29 日アクセス。
- (8) 渋谷区「ハロウィーン期間の忠犬ハチ公像周辺の仮囲いおよびプレスエリアの設置について」(2024 年 10 月 17 日)
- (https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/hodo/hodo-2024/hodo_20241017.html)
2024 年 10 月 29 日アクセス。
- (9) 「ハロウィン近し 東京・渋谷は「無法地帯」 改造車が列、外国人も禁止守らず 飲酒」(https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/900010964.html)
2024 年 10 月 28 日アクセス。
- (10) 日テレ NEWS 「「渋谷はハロウィーン休みます」...ハチ公像も“封鎖”で厳戒態勢 お台場では“新たな聖地化”目指す施設も」(10/30(水))
- (<https://news.yahoo.co.jp/articles/8949804a63cb9b7c51162a48ab77f5bbef02fb6f>)
2025 年 1 月 15 日アクセス。
- (11) NHK 「1 月～11 月の訪日外国人旅行者 累計 3337 万人余 過去最多上回る」(2024 年 12 月 18 日)
- (<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241218/k10014671711000.html>)
2025 年 1 月 21 日アクセス。
- (12) JNTO 日本政府観光局「12 月：3,489,800 人、単月として過去最高を記録／2024 年 計：36,869,900 人、年間で 3,600 万人を突破し過去最多」
- (https://www.jnto.go.jp/news/press/20250115_monthly.html)
2025 年 1 月 21 日アクセス。
- (13) 観光庁「インバウンド消費動向調査【トピックス分析】訪日外国人旅行者（観光・レジャー目的）の訪日回数と消費動向の関係について」
- (<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001853728.pdf>)
2025 年 1 月 21 日アクセス。
- (14) Kyodo News “Shibuya is officially closed for Halloween 2024”
- (<https://www.timeout.com/tokyo/news/shibuya-is-officially-closed-for-halloween-2024-101624>) 2025 年 1 月 21 日アクセス。
- (15) Kyodo News “Halloween crowd control tight in Tokyo's Shibuya, Shinjuku”
- (<https://english.kyodonews.net/news/2024/10/13c3dbbe5ae2-halloween-crowd-control-tight-in-tokyos-shibuya.html>) 2025 年 1 月 21 日アクセス。
- (16) Ditto.
- (17) 田中宏昌「ハロウィン参加は少数派、楽しみ方は仮装よりも...「5000 人調査」で意外な事実が判明 データで見抜く「世論」の真実」(2023.10.28)
- (<https://diamond.jp/articles/-/331228?page=2>) 2025 年 1 月 21 日アクセス。
- (18) NRI「コロナ禍以前の生活に戻せない日本人～戻らない日本人の余暇消費と新需要開拓の必要性～」(2024 年 2 月 26 日)

(https://www.nri.com/jp/knowledge/report/20240226_1.html) 2025 年 1 月 22 日アクセス。

引証資料

佐々木隆 a (2024). 「渋谷ハロウィーンを振り返る—その変遷と時流—」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第 12 号、ポップカルチャー・若者文化研究会。

佐々木隆 b (2025). 「渋谷ハロウィーンの原点とは」、『ポップカルチャー・若者文化研究』第 18 号、ポップカルチャー・若者文化研究会。

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学大学院・武蔵野学院大学教授

ポップカルチャー・若者文化研究 第20号

2025年7月28日 発行日

ポップカルチャー・若者文化研究会 編集・発行

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台3-26-1

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室内

ポップカルチャー・若者文化研究会事務局

問い合わせ先: takashi.sasaki@u.musa.ac.jp